



委員会



一般質問

2月定例会 一般質問 議事報告

抜粋

※詳細は県議会ホームページをご覧ください

長野県小諸養護学校について

【山岸】小諸養護学校に、明るい知らせが入りました。中学部の3年生女子が、聖火ランナーに選ばれました。...



小諸養護学校

信州カラマツ等の利用促進について

【山岸】東京オリンピックで、体操などの競技場となる、有明体操競技場は、内装、外装ともに、木材をふんだんに使い、オリンピック関連施設の中では、木材利用が最も多い施設であります。...

また、間もなく開館を迎えます県立武道館にも、カラマツ材を始めとした、県産材が多く使用され、柔らかい温かみのある施設に仕上げられています。...

小諸養護学校は、平成元年4月に開校し、31年目を迎えました。小学部、中学部、高等部があり、佐久地域11市町村の特別支援教育のセンターとして、地域の行事にも積極的に参加し、...

開校時、児童生徒数101人規模でしたが、現在は、児童生徒数が223名、教職員153名と、当初の2倍以上の学校になっています。...



長野県小諸養護学校

【教育長】ご指摘のとおり小諸養護学校について

は、児童生徒数の増加、障がいの多様化・重複化により、厨房設備の能力や調理スペース、トイレを始めとする生活環境のバリアフリー化など、施設設備の課題を認識。特に、「わかば教室」については、普通教室を転用し、重度重複障がい児童生徒の学習の場としたことから、床面の衛生環境の確保や出入り口の改善、学習スペースの確保など、早急な対応が必要と認識している。

【山岸】次に、森林・林業人材の育成についてです。長野県の強みは、森林王国と言われるように、その78%が森林であるということから、森林・林業の技術者を育成することは、自然の理であります。

長野県としても、高校の職業科の募集において、中々定員を満たすことができません。断片的な判断で、その必要の可否を論じるのではなく、その教育が、県、そして国を守る力になることを、子供たちに教えていかなければならないと思うところであります。

また、全国から注目される、森林・林業人材の育成に取り組むことにより、中山間地域の雇用先も生まれ、地域の人材確保のニーズも、高まるものと思えます。

【山岸】また、小諸養護学校は、特別支援教育のセンターとして、関係する佐久地域にとって、どのような役割を果たしていくべきでしょうか？

【教育長】小諸養護学校は、佐久地域における特別支援教育のセンターとして、各種相談への対応や、専門性の高い職員が小・中学校等に出向き、児童生徒への支援や学習環境改善への助言、関係機関との連絡調整等、地域における特別支援教育を推進する役割を担っている。

一方、小・中学校等からは、支援の方法や教材の作り方などを直接参観して学びたいという希望もあり、今後は、地域における特別支援教育に係る学びの場としての機能も強化したいと考えている。



養護学校校舎

県立高校再編 県教育委員会より 検討案出る 小諸・小諸商 野沢北・野沢南 少子化に伴う県立高校の再編を巡り、県教委が佐久地域の野沢北高校と野沢南高校、小諸高校と小諸商業高校を再編対象とし、統合を検討する案を固めた。...



佐久武道館 3月26日オープン



発行責任者：山岸喜昭
〒384-0022 長野県小諸市南町3丁目9番地19 TEL0267-24-2310 FAX0267-24-2320
http://www.asamakaze.com E-mail yamagishi@ctknet.ne.jp



2月県会一般質問

2月定例会 県議会

**総額9476億円の
令和2年度一般会計当初予算など
県提出の68議案を原案通り可決**

**予算規模(一般会計)
9476億8660万7千円**
**うち令和元年台風19号災害対応分
491億6848万3千円**

台風第19号災害からの復旧・復興とその教訓を活かした災害に強い県土づくり、気候非常事態宣言を踏まえた取組に重点を置くとともに、しあわせ信州創造プラン2.0を着実に推進するべく、次の視点により予算案を編成。

命を守る県づくり

◎台風第19号災害からの速やかな復旧とより良い復興を着実に推進

◎台風第19号災害の教訓を活かし、災害に強い県土づくりを推進、他

将来世代を応援する県づくり

◎子どもたちが個性を発揮して活躍できるよう、幼稚園・保育所から高校までの各段階での学びの質を高める「学びの改革」や教育環境整備を推進

◎困難を抱える子どもや若者が希望を持つて暮らすことができるよう、学習機会の確保や相談・支援体制の整備、社会的自立の支援を強化、他

時代の変化に即応した産業・地域づくり

◎IT産業の集積やスマート農林業の普及など「信州ITバレー構想」の実現に向けた取組を推進するとともに、今後策定予定の「デジタルトランスフォーメーション戦略(仮称)」により様々な分野での先端技術の社会実装を促進、他

今年度から 「フレイル健診」開始

フレイルとは…筋力などが低下し、心身が弱ってきた状態を言います。認知機能の低下やうつなどの精神面と孤立などの社会性も関係すると言われ75歳以上で増加するとされています。

厚生労働省は、要介護になる手前の「フレイル」の人を把握するため、75歳以上の後期高齢者を対象に今年度から新たな健診を導入します。

食べる量が減る、足腰の筋力が落ちる、家に閉じこもりがちになる…などが続くと寝たきりになる恐れがあり、適切な栄養摂取や運動により健康を保つたり取り戻すことを目標にしている。

「フレイル健診」は、市町村で実施。■お茶や汁物にむせるか ■硬いものが食べにくくなったか ■歩く速度が遅くなったか ■家族や友人との付き合いがあるかなどの質問があり、結果により保健師らが食事や運動の指導、助言を行います。

夢の県立武道館が開館

長野県の武道振興の中核拠点となる施設が佐久市の創錬の森に開館しました。北に浅間山、南に八ヶ岳を望み、豊かな自然に囲まれた環境を活かし、武道と日本の自然が一体となるような「凛としたたずまいをもつ武道館」がイメージされています。

敷地の南北に浅間山に向かう交流軸を設け、その両側に主道場、柔道場と剣道場を低層で配置しています。それぞれの道場間には、回廊や中庭や交流ロビーを配置し、相互に独立しながらも交流が生まれるような日本的な中間領域を設けています。地元のカラマツを中心とした県産材を多用し、主道場の屋根架構は鉄骨と木造のハイブリット構造を採用しています。主道場は、多目的アリーナとしても利用できる施設設備として3,000人収用することができます。

スポーツは、地域を一体化し、より大きな力を与えます。学校教育で武道が必修となり、2027年には国民スポーツ大会が県内での開催が予定される中、県内唯一の武道振興施設は、他には例のない全国に誇れるオンリーワンの武道館として多くの大会やイベントが開催されます。スポーツによる地域振興の拠点とし国際化した武道の聖地として期待されています。そして、ここから世界に通用する武道家が育つことを夢見ています。

台風19号災害からの復旧・復興について

被災者の暮らし・生業(なりわい)支援の他、安心・安全な生活や事業再建のために必要な道路、河川、下水道などのインフラ等の早期復旧・改良を引き続き実施

ハード対策

- 重要インフラの防災・減災対策
- 浸漬(しゅんせつ)の緊急の実施
- 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策
- 森林づくり県民税を活用した防災・減災対策
- ライフラインや道路周辺の危険木伐採、河畔林整備
- 間伐による森林の公益的機能向上
- その他
- 災害に強いインフラ整備

ソフト対策

- 《日頃から災害への備え》
- (新)浸水想定区域図の作成
- (新)大規模風水害を想定した図上訓練の実施
- (新)災害対応の振り返り
- 《災害発生時に命を守るために》
- 災害情報伝達の機能強化
- (新)危機感が伝わる情報発信・伝達のあり方検討
- 《災害発生後の被災者支援の充実》
- (新)ボランティア活動の支援

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

「再度災害防止と軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最少化」を目標としたプロジェクトで、台風19号災害を踏まえ、国・県・市町村が連携して取組む施策を取りまとめ、概ね5年間で推進する。①河川における対策②流域における対策③まちづくりソフト対策からなり、令和2年度の取り組みが示されました。



諏訪白樺湖小諸線 布下工区



長野県立武道館